

第7号

本小の教育「授業研修会」

初任授業

◎ 授業スタンダード期 「授業の型づくり」

本日の授業は、2年2組 新里陽子 先生による「初任者授業」と「2学年互見授業」をセットしたものである。互見授業は、「リレー方式」を取り入れ、小2算数の単元「長さをはかってあらわそう」(9時)の教材を、①(1/9)時2の2(陽子)、②(2/9)時2の3(奈津)、③(3/9)時 2の1(有子)とリレーする形で授業を展開し、お互いに参観する事となった。初任者ながら風格のある「陽子」先生、落ち着き払っての授業と思いきや、本人によると緊張して、「頭の中が真っ白」であったそうだ。しかし、子供の扱いは素晴らしい。

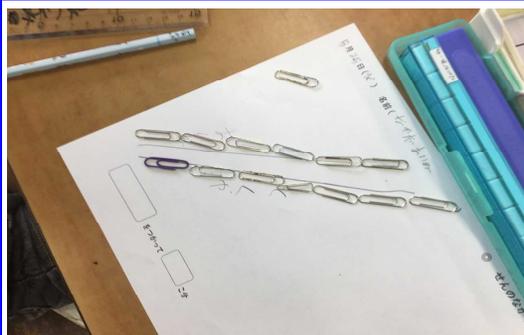


■ 2年2組 (初任者授業) 「新里 陽子」先生 3校時目

【児童の手(学習規律)】



【教室の色(支持的風土)】



【教師の眼(教師の姿勢)】



■子ども達の「学習規律」について■

- 子ども達は、よく「黙」られていた。
- 「黙想」「良い姿勢」「始めの挨拶」
- 「学習用具の準備」や「学習規律」
- 「レディネステスト」の結果も良い
- 「既習事項」がよく出来、定着してる
- 「ペア学習」も慣れておりスムーズ
- 「自力解決」の「算数的活動」も良い
- 「思考」「活動」「聴く」けじめも良
- 「板書のノート記録」なども出来てる

■教材と子ども「教材観」について■

- 単元名「長さをもって表そう」(9h)
- 2学年「C:測定」算数的活動を通し
- 1学年「既習事項」=「あた」「つか」
- 手や指を使って、「いくつ分」で表現
- 「量感」を身に付けさせるPointは？
- ①「武器になる量」を身に付ける
- ②「その量の、いくつ分」と表せる
- 見当をつけることは、とても大切だ。
- 指や手でおよその長さ予測後、実測。

■教師のスキル「指導観」について■

- 授業前までは、落ち着き子供の相手を。
- 授業開始と共に、超緊張が、伝わった。
- 板書事項も2~3度、書き直すほどだ。
- 指導案もレディネスも本時も準備万端
- 当日のその時だけがパニックになって
- しかし、途中から自分を取り戻した？
- 子供の算数的活動を写真に撮ってたが
- ICT機器投影されることはなかった
- 次回の「初任研授業」に再度の期待を

【感想】 「初任者授業・2年互見授業 リレー方式」、トップバッター 本当に 有難う ございました。

○「量感を養う」片手を広げ、親指から中指までの長さ「あた」、握った手の4本指幅を「つか」と云う
 ○「両手を広げた長さ」=「ひろ」、その人のおおよそ「身長分の長さ」だ。昔は、測定は身体を使った。
 ○「子供達の扱い方」は慣れている。後は、落ち着いてシナリオ(指導案)通りにすすめれば良いだけ。
 ○「低学年の子供」への「ノート指導」には、「マイノート」が必要であろう。書き直し、行替えなどで。
 ○「レディネス」をしてあるので、「既習事項」の確認にでも活用するべき。本単元の間は教室掲示など。
 ○「指導案の座席表」レディネスの結果や、つまずきのある子、本時に、乗り越えさせる事項を記入して。



校長より